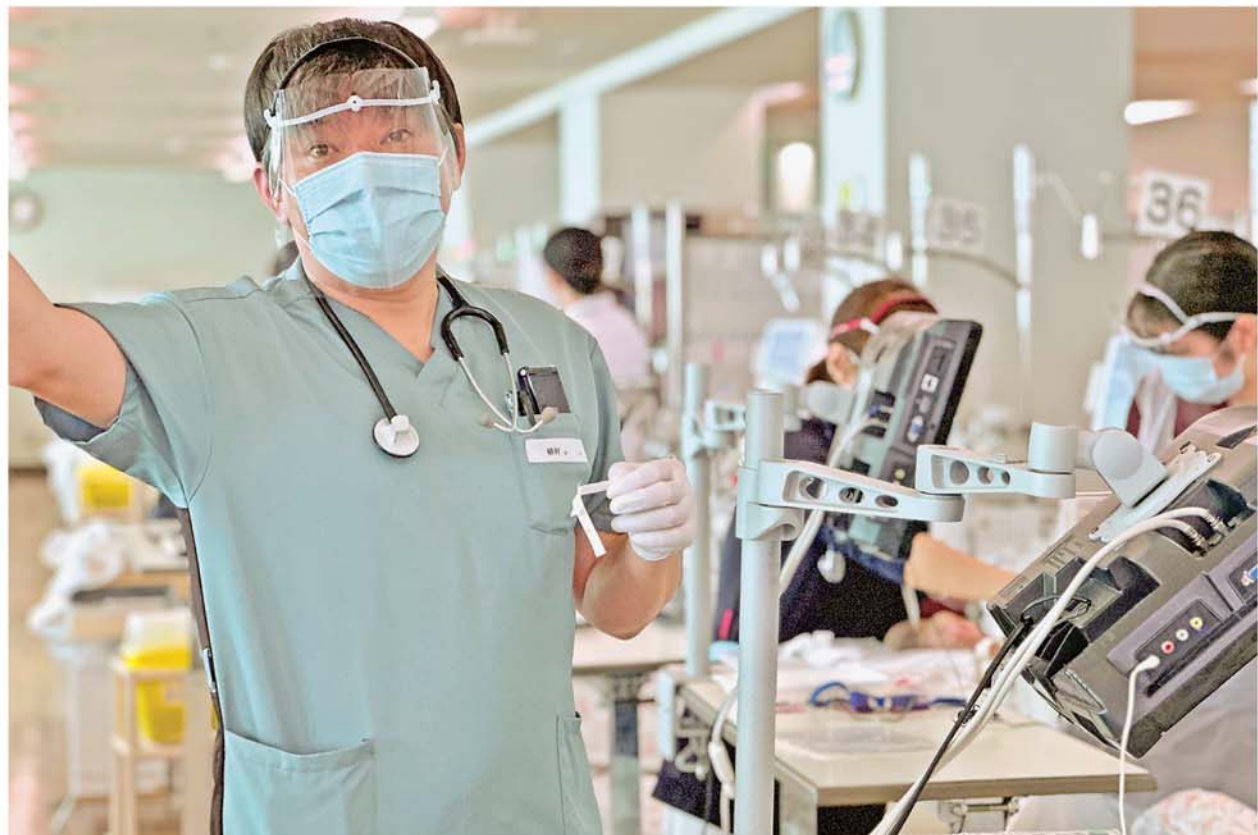


透析患者の疲労軽減

日鋼病院東室蘭サテライト



英専門誌に掲載された、透析患者の疲労軽減について論文をまとめた日鋼記念病院臨床工学室・植村進技士長

植村技士長ら英専門誌に論文

室蘭・日鋼記念病院（高橋弘昌病院長）の東室蘭サテライトクリニックに導入した透析システムが、透析後の重度疲労感軽減につながっているとの論文が英専門誌に掲載された。

論文は同病院臨床工学室の植村進技士長らがまとめた。和訳のタイトルは「透析患者の疲労感における水素濃度の違う透析液の影響」で、同クリニックが昨年導入した第3世代電解水透析システムに着目した。

新たに導入した装置の特長は、作り出される透析液内の水素濃度の高さ。従来の第1世代システムと比べ3倍になった。

この水素濃度が高い新たな装置の導入前から導入8週間後までの透析患者の疲労感を調査した。透析患者の声をデータ化したほか各種指標の解析を行った。

論文では「疲労感が明らかに軽減したと感じる患者が増加した」と報告。

また、体感として疲労感が軽減しなかった患者に対しても、血圧を下げ過ぎないことの重要性を確認。降圧剤の量を調整することで疲労感の抑制に期待できる可能性を示した。

新たなシステムは生活の質の向上にも直結。透析は一般的に1週間に複数回、数時間と拘束時間も長い、疲労感が軽減されることで経過の悪化防止や社会復帰の促進にもつながるといふ。

論文の筆頭著者である植村技士長は「新たなシステムと解析により、多くの患者に対し疲労感軽減につながるより良い透析が提供できる」と「これから研究していく」と話している。